

ウミガメ類の生態調査を通じた 自然環境保全への啓発活動



東京大学大気海洋研究所海洋生命科学部門行動生態計測分野 佐藤克文
NPO法人日本ウミガメ協議会付属黒島研究所

背景と目的

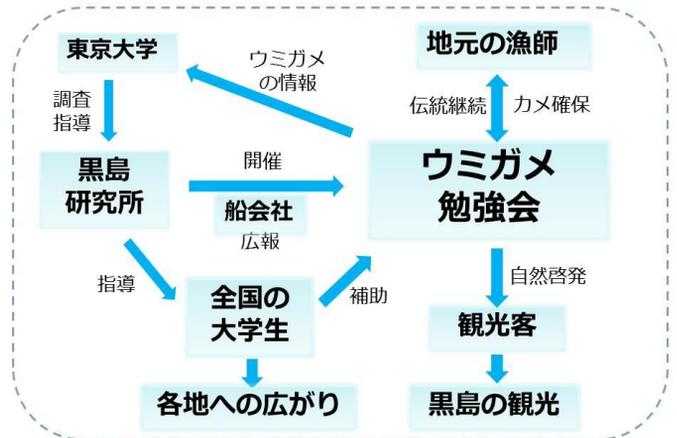
ウミガメの調査や研究は数多く行われているが、その成果が一般にまで伝わっていない。また、ウミガメの産卵地である砂浜と比べ、生活史のほとんどを過ごす海の中の調査は遅れている。そこで、一般の観光客らと共にウミガメの調査を行うことで、生態を解明するだけでなく、既存の成果を一般に広く伝えたい。

ウミガメ勉強会の開催

黒島に訪れる観光客を対象に、ウミガメの標識放流調査を通して環境保全活動のイベントを開催した。

- 準備
 - a. 伝統漁法（かーみーかけ）でウミガメを確保
 - b. 全国の大学生たちへ、調査や生態の指導
- 当日
 - c. はく製や標本を使って、ウミガメの見分け方や生態の解説
 - d. 観光客たちとウミガメの大きさを測定する
 - e. 放流の前に個体識別するための標識番号を記録
 - f. 砂浜でウミガメを放流し、標識放流調査スタート
- その後
 - g. 登録ハガキでウミガメが再発見のお知らせ
 - h. 再発見の事例

ウミガメ勉強会の効果



活動の成果と展望

- 夏休み、9月連休、年末年始、春休み、5月連休にのべ82日間開催し、合計1018名が参加 → 啓発活動だけでなく、黒島の観光業に貢献した
- 伝統漁法により85頭のアオウミガメを入手 → 衰退している漁法の存続に貢献した
- 黒島研究所の研修生55名がウミガメ勉強会を経験し、大学祭や各地で同様のイベントを開催 → 未来の研究者の育成と活動の広がり
- 再発見により、ウミガメの生態解明。
- 現在は、衛星追跡調査も実施し、随時 ホームページで公開中 (I,j)
- ★標識放流は再発見されるまでデータが手に入らない。何十年も生きるウミガメを追跡できる唯一の方法で、長期的な視点にたって調査を継続する必要がある。そのために一般的な理解と支援が必要であり、啓発活動も継続し続けることが重要である

